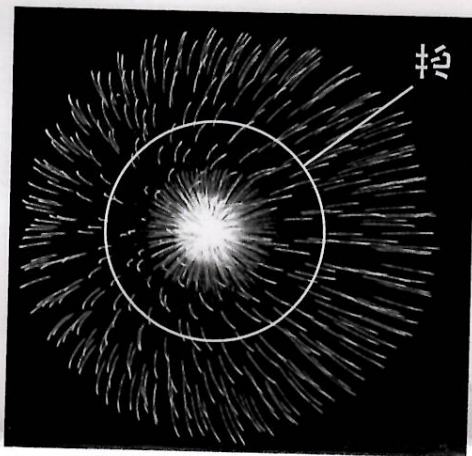


維持することが難しい。それを可能にしてきたのが、「花火師」と呼ばれる職人がもつ高い技術とよりよい花火を探究する精神だ。……から花火師たちの話へ

花火師たちは、花火を作り、それを打ち上げることを仕事とする。危険な火薬を取り扱うため、製作時にも打ち上げ時にも安全に配慮しながら、日々、新しい花火の創作に打ち込んでいる。

花火師によると、理想とする花火の姿は、ゆがみなくまん丸く大きく開くことだという。開いた時の破綻のない丸さは、日本の花火の最大の特徴として追求されてきた要素だ。さらに、はつきりした発色で一斉に変色し、一斉に消える。芯物の場合は、芯の部分全体ができるだけ丸く大きく開き、その中心が一点に合わさる。それぞれの条件は単純だが、同じように細心の作業をしても、全てを満たす満足のいく花火玉は、年に数えるほどしか生まれないとのことである。

形の乱れやゆがみは、見た目の美しさを半減させる。花火作りは、内包する部品作りから組み立てにいたるまでほとんどが手作業で、その良しあしや精度が、開花した時の姿に大きく影響する。



真球に近く理想的な形に開いた花火とその芯

丁寧な作業を積み重ねることによって、理想の姿に近づけていくのだと花火師は言う。

大きく整った球体となって開花するためには、花火玉を、上昇から落下に転ずる一瞬止まった時に開かせることが欠かせない。動きの途中で開くと、花の形がゆがんで丸く開かない。このタイミングを合わせるために、打ち上げる技術にも気を配る。

花火玉が開いて、星が一斉に飛び散って作る全体の形のことを「盆」という。花火が開く時の直径は、花火玉の大きさでおよそ決まっているが、それをより大きく見せ、理想とする盆にするために、星を正確に敷き詰め、加えて、割火薬の爆発力と、玉皮の強度などのバランスを追い求める。

花の花弁や芯になぞらえられる星は、花火の命といわれる。全ての星が一系乱れず均等に飛び、同時に変色し、消えなければならない。内包する数百の星を均質に仕上げるために、花火師は星の製作に最も神経をつかう。形や燃え方のふざろいがあればその星はまっすぐに飛ばない。いくつかの星が蛇行することを「星が泳ぐ」、着火しない星があつて均等に広がった光の一部が欠けることを「抜け星」という。いずれも、理想とする花火の姿を破綻させてしまう要因になる。

それぞれの星の色合いや変色の具合も、観客の目を楽しませることができると

昇

2 同 探究
7 意 破綻

10 意 なぞらえる
11 意 ……しなけれ
ばならない
15 文 いずれも